

里山文化Ⅱ

森の時間、人の時間

～インタープリテーションと森林再生～

日時：平成25年12月14日（土） 10:00～12:00

講師：酒井 立子（よりあい工房ばんどり）

概況



科目名：里山文化Ⅱ 「森の時間、人の時間 ～インタープリテーションと里山文化」
講師：よりあい工房ばんどり 酒井立子

インタープリターという言葉をご存知ですか。

インタープリターとは、人と自然との橋渡し役となって、自然のこと、自然との関わり方を伝える人のことを言います。今回は、そんなインタープリターとしてご活躍されている酒井立子先生に人と自然の関わり方をどう伝えていくかについて、里山文化という観点から講義をしていただきました。

里山というのは、人の暮らしと自然が互いに影響しあって調和した場所ですが、この里山の現状について皆さんで意見交換してみると、「過疎化している」、「持続可能ではなくなっている」、「里山にすむ生き物が減少している」、「里山として機能していない」という意見が出てきました。里山は、人と自然が繋がり、循環している場、自然と触れ合って人と一体になる場として機能してきました。そういった意味では、里山とインタープリテーションは同じ役割を持った存在なのです。

そんな里山の文化を広げていくために何ができるかを、グループディスカッションでそれぞれ話し合った結果、「古民家実際に住む体験プログラムをつくる」、「農カフェを開く」、「山で一つの共同体をつくって助け合いの輪をつくる」、「里山資源を使う」、「自然の恩恵について考える機会をつくる」など、さまざまなアイデアが出てきました。これから里山文化を広げ、伝えていくためにできることはたくさんありそうです。